

第 44 回(令和 6 年度 第 3 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 7 年 2 月 5 日 (水) 10 : 30 ~
- 場 所 黒部市役所 201・202 会議室
- 出席者 協議会委員 14 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通計画を 作成しようとする 市町村	黒部市長	武隈 義一	副市長 上坂 展弘	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 慶志郎	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	欠席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	高嶋 茂晴	所長代理 藤田 実	
		黒部市長《再掲》			
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	池田 高彦	本人出席	
		黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市民生委員児童委員協議会長	藤澤 義信	欠席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	此川 昇	本人出席	
		ウィメンズくろべ	高橋 省子	欠席	
		公募委員	下石 典江	欠席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	本人出席 (オンライン)	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	新倉 孝礼	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	大田 尊博	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	景山 隼人	本人出席 (オンライン)	
		富山県交通政策局 地域交通・新幹線政策室交通戦略企画課長	有田 翔伍	欠席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	本人出席	
		Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長	小林 聖子	業務推進 グループ長 岡 智和	
		富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	金山 剛	本人出席	
		宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席	

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：小森部長、西田主幹、中係長、島崎技師、井田技師
- NiX JAPAN 株式会社：馬場、山根

会議次第

1 開 会

2 あいさつ（上坂副市長）

3 報告事項

（１）経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1

（２）電動ミニバス実証運行事業の実施結果について・・・・資料 2

4 協議事項

（１）新幹線市街地線の一部変更について・・・・・・・・資料 3

（２）石田三日市線の一部変更について・・・・・・・・資料 4

（３）愛本コミュニティタクシーの一部変更について・・・・資料 5

（４）新幹線生地線及び南北循環線の一部変更について・・・・資料 6

（５）電動ミニバスの運行について・・・・・・・・資料 7

5 その他

一般社団法人 S M A R T ふくしラボでの取組事例

「コミュニティ・ドライブ・プロジェクト」について

6 閉 会

開会

●定刻通り開会した。

○進行：西田主幹

あいさつ（上坂副市長）

●会長代理よりあいさつを行った。

本日は、第 44 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位には、ご多用の中、ご出席いただき感謝申し上げます。

また、日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

本市では「出かけやすいまちづくり」「出かけて楽しいまちづくり」を掲げ、公共交通の活性化の施策を展開したいと考えている。特に中心市街地の回遊性を高めることにより、賑わいづくりや市民の外出促進につなげ、さらには健康増進の支援になればよいと考えている。昨年は 10 月に電動ミニバスの実証運行を行い、今年 4 月から本格運行を目指している。

本日は、新年度に向けての路線バスの運行及び見直しについて協議させていただく予定としている。

委員の皆様からは、各案件について、忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。それでは、本日はよろしくお願い申し上げます。

報告事項

(1) 経過報告

(2) 電動ミニバス実証運行事業の実施結果について

- 事務局より、資料 1 ～ 2 に基づき「経過報告」、「電動ミニバス実証運行事業の実施結果について」の説明を行った。

○原田委員

①電動ミニバスの実証運行時の利用者数について、11 月の特定の日に利用が多いが、理由があれば教えてほしい。雨の日の利用が少なく、また午後の便の利用が多いように感じている。②「三日市保育所」バス停で利用者が多い理由が分かれば教えてほしい。③乗降人数がいずれかに偏っているバス停が多い理由が分かれば教えてほしい。④アンケート調査で「どの程度の料金であれば利用しますか」という設問の回答結果を教えてほしい。

○事務局

①11 月の利用が多い日については、4、5 便で小学生のお子さんが児童センターに行く際に利用したと聞いている。②三日市保育所周辺は、櫛町という住宅街になっており、高齢者の通院や買い物に利用していただいたと考えている。③乗降人数に偏りのあるバス停は、例えば A ルートの市民病院では、始点と終点で 2 つのバス停があり、乗りと降りのいずれかが多くなっている。④アンケート結果の料金については「100 円程度」という回答が最も多く、運賃協議会の審議で参考にしていきたいと考えている。

○原田委員

乗降人数については、市民病院からメルシーなど片道利用が多いと感じていた。「三日市保育所」バス停については、自身が利用した際に偶然小さなお子さん連れの女性が降車したため、利用状況を確認した。

協議事項

- (1) 新幹線市街地線の一部変更について
- (2) 石田三日市線の一部変更について
- (3) 愛本コミュニティタクシーの一部変更について

- 事務局より、資料 3～5 に基づき、「新幹線市街地線の一部変更について」、「石田三日市線の一部変更」、「愛本コミュニティタクシーの一部変更について」の説明を行った。

○川端座長

いずれも以前からの協議事項であり、愛本コミュニティタクシーについては、暮らしのサポート便実証運行の結果に基づくものである。

ご意見なければ、以上 3 点について拍手で承認をいただきたい。

- 出席している委員から承認の拍手をいただいた。

- (4) 新幹線生地線及び南北循環線の一部変更について

- 事務局より、資料 6 に基づき、「新幹線生地線及び南北循環線の一部変更について」の説明を行った。

○岡委員

YKKグループとしては、今回の変更については社員の利便性が上がって非常に良い。一方で、「吉田科学館」を運行しなくなることについては、吉田科学館に確認されたのか。

○事務局

吉田科学館とも意見交換しており「やむを得ない」とご返答をいただいている。吉田科学館から最寄りバス停となる「I-TOWN」に降りると、すぐ前に吉田科学館が見えるため、徒歩でも容易に来館できると考えている。運行マップに関しては、「I-TOWN」バス停の最寄り施設として吉田科学館をPRしていきたい。

○川端座長

作業部会でも同様の意見があり、「I-TOWN」バス停で、吉田科学館の案内をするのがよいという意見があった。

そのほかご意見なければ、拍手で承認をいただきたい。

- 出席している委員から承認の拍手をいただいた。

(5) 電動ミニバスの運行について

●事務局より、資料 7 に基づき「電動ミニバスの運行について」の説明を行った。

○新庄委員

電動ミニバスの実証実験の平均利用者数は、Aルート 1.8 人／便、Bルート 3.2 人／便であり、乗車定員 6 人に対しては物足りない利用者数である。電動ミニバスは目玉施策ではあるが、時速 19 kmで移動手段の速達性としては劣ることに間違いはない。乗ることを目的として「乗ることが楽しい」という付加価値がないと、平均利用者数は改善できないように感じる。何かアイデアはあるか。

○事務局

本市では「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」をコンセプトに掲げており、実証運行の際も地元にお話しし、ご利用いただいている。実証運行では、オープン型の車両を利用したため、11 月下旬は天候が寒く利用が少なかった実情がある。本格導入では、密閉型の車両でエアコンも入っているため、天候が悪い場合にも乗車いただけるように感じている。実証運行で利用された方は、今後も利用したいとの意見もあったため、さらに「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を PR していきたい。

○川端座長

多くの方にご利用いただけるよう工夫をしていく必要がある。速達性というよりも「乗るのが楽しい」「出かけて楽しい」交通手段として利用していただけるとよい。

○原田委員

今の話は重要である。資料 P. 6 にアンケート調査結果が掲載されている。400 人以上の利用に対してアンケートの回答が 25 人と少ないことが気になるが、利用希望頻度が高いことや車利用者が半数以上いること、外出頻度が増えることなど、非常によい結果が出ている。

ただし、「出かけて楽しい」に役立っているのかが不明である。「ゆっくり走行して時間がかかるが、それでも楽しく利用できますか」など、設問を工夫し「出かけて楽しい」ことが確認できるとよい。小さな乗り物で皆とおしゃべりしながら楽しく利用できる、出かけるのが楽しくて繰り返し出かけるなどである。電動ミニバスの運行に合わせ、くろべ市民交流センター「あおーよ」で地域の人が集まるイベントを仕掛けた方がよい。運行開始後のアンケートについては、そのような点も検討いただけるとありがたい。

○事務局

いただいたご意見を参考に、是非今後もアンケートを実施したいと考える。感謝を申し上げる。

○川端座長

まちなかをゆっくり走行するため、郊外からの路線と電動ミニバスをうまく接続できれば、違う使い方もあると感じている。

○上坂会長代理

新庄委員から移動手段としてのご意見をいただいたが、まちを賑やかにするひとつのアイテムとして、どのようなものとするかが大切である。本日いただいた意見を参考に、より乗車していただけるものにしていければよいと考える。アンケートは、乗車した方だけでなく、乗車していただけないような利用者の予備群の方からも意見を聞けるアンケートとしたいと考えている。

○原田委員

利用者としては「三日市などの沿線に住んでいる人」と「まちの外から来る人」の2種類の利用者が考えられる。外から来てまちなかを散策しようとする人は、利用のハードルが高い。住んでいる人は、電動ミニバスを高く評価しておりその効果を確認の上、さらに運行を続けるのかという判断が必要である。

まちの外から来る人に、電動ミニバスを利用してもらうには、さらに仕掛けが必要である。

○川端座長

そのほかご意見なければ、拍手で承認をいただきたい。

●出席している委員から承認の拍手をいただいた。

その他

●SMARTふくしラボでの取組事例として「コミュニティ・ドライブ・プロジェクト」について、小柴氏より説明を行った。

○川端座長

全国で5カ所指定され、その中でも黒部市では先進的な取組である。本事業では移動について検討しており、公共交通と一緒に連携できる可能性があると考えている。様々な取組の中で一緒にできることがあれば、お声がけいただきたい。

○原田委員

2年目となるGOトレではグリーンスローモビリティも利用され、様々なよい取組をされている。住民同士の意見の把握や、実際の人の動きの可視化では、福祉車両を活用する意図があると思うが、その見込みについて追加で説明いただけるとありがたい。

○小柴氏

福祉車両のみの活用を当初は考えていたが、今は福祉分野だけでなく地域全体のリソースの活用について考えている。分析では市民の皆さんの移動が重なっていることが明らかになってきている。現在は、車両の 4 人席のうち 3 席を捨てている状態であり、その活用についてデータ分析しながら進めている。

○原田委員

お出かけの際に、他人の車で一緒に出かける「世帯間同乗」は、交通として多く実施されている。同乗の中には遠慮して利用している場合もあるが、お互いに楽しく利用しているケースもある。ちょっとしたきっかけで同乗が広がると、色々な活動が活発にできる。非常に楽しい同乗にしていきたい。

閉会

●事務局

以上をもって、第 44 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会する。ご多用の中、ご出席いただき感謝を申し上げます。

以 上